ミュンヘン七カ月の生活

船　戸　鉦　市

私は昨年１月から７月まで，本学当局，名古屋日独協会並びに神戸ドイツ総領事館の格別の計いでミュンヘンのゲーテ研究所本部の外国人ドイツ語学者上級クラスにおいて所謂 Direkte Methode によるドイツ語研修を通じてドイツ国内に存在ししている文物を直接日常生活を通じて見聞する機会に恵まれました。

１月８日午前11時羽田を発ったボーイング720のジェット機は時速１千粁高度１万米でもって，香港，バンコック，カルカッタ，カラチ，ダーラン，カイロ，ローマ各々約１時間寄港し翌１月９日午前７時にドイツのフランクフルトに到着，そして国内線に乗換え同じく空路約１時間で目的地ミュンヘンに着きました。空港には所長ドクター・クンツエ氏が迎えに来ていてくれてそのままゲーテ研究所へ直行，入所の挨拶と確認を30分足らずですませ，近所のレストランで昼食を御馳走になりました。早速ミュンヘン名物のクネーデルという肉だんごの入ったスープとトンカツを紹介された。食後直ちに研究所を追出され，既に研究所を通じて予約してあった住宅地の下宿へ同日の３時頃到着，留学第１日が始まりました。下宿は丁度名古屋の千種台にあるような市営住宅の一世帯の３倍位の大きさの家で，私は二階の約十畳位の部屋を，家具付及び電気代フロ代を含めて１ヶ月１万５千円で借りました。家主は60才位の未亡人とその息子でミュヘン工科大学生との二人暮しの家庭でした。食事は外食でしたが，朝食丈は室内でとりました。毎月の生活費は研究所から4万2千円支給してくれましたが，その中から家賃と外食費及び小遣いをねん出しなければなりません。私は出発時法律できめられた外貨７万２千円をもって出ましたので，７ヶ月の内１万円づつプラスすることができました。合計月５万２千円の生活費です。部屋

代1万5千円を引くと3万7千円ですから，一日約1千円で食費と小遣交通費等を出したわけです。食費は単身で生活する場合1日約5百円はかかります。朝はコーヒンとパンで簡単にすませても，昼か夜は温食（スープ等煮物のついた食事）が要りますが，普通の食事で2百円から4百円迄位の定食で十分満腹できました。私達日本人にとって有難かったのは，お米が市内のどこのスーパーマーケットでも1キロ70円から100円まで位紙袋に入れて売っていますので，夕食等は自室で時々炊飯いたしました。大体イタリヤ，スペイン，エジプトから輸入した米で勿論ドイツ国内ではお米は栽培されていません。果物も安くバナナが1キロ120円でした。下宿から研究所まではバスで15分の区間で1ケ月の学生定期が1千百円でした。但し日曜祭日は通用しません。市電もバスも一区30円，二区及び乗換は50円で2区以上距離に制限ありませんが，乗換のときはチャンと時間がスタンプしてありますから，乗換場所で食事をしたり，映画をみたりしていると無効にされてしまいます。なお午後11時を過ぎると市バス市電共5割の深夜割増料金をとられます。市電バス共新しい車は全部前向きシートで新聞を開いても楽に読めるスペースがあり，ラッシュ時でも日本のように押したりへし合いは先づありません。抑々自己以外の人体物体に許可なく接触することは大変失礼なことですが，このことが実に厳格に保持されており，車内で少しでも必然以上の接触が双方の意志に反して生起したときは必ず失礼と挨拶をいたします。当り前のことに思われますが，自分を大事にすると同時に相手も同じ大事にされたいと思っている人間として対等に認識する，つまり個人の尊厳が双互に尊重される，生活の一端がチラリとのぞかれます。それから乗車順序ですが，第一番が乳母車にのった赤ん坊と母親，これは乳母車ともそっくり車内へ一番先に入ります。それから老人，婦人，成人，学生生徒の順です。子供は車内に居りましても高声を出すことは許されません。また児童以上の生徒学生は成人者に席を譲るのが立前です。学校の先生が生徒を引率して車内にいるときは如何に静粛にさせるか非常に気をつかっていました。

さて10日から研修が始まりました。ゲーテ研究所というのは1952年に設

立され，最初は外国人のドイツ語学者及び文学者に対しドイツ国内または世界各国においてドイツ語を通じドイツの文化を紹介する機関で，ゲーテそのものを研究する機関ではありません。勿論教材の中には当然ゲーテという人物は出ては参りますが，この場合この研究所に対し短せられた行動に過ぎません。ドイツ国内に9，世界各国にも112の支所をもって，それぞれドイツ人の所長が管理しており，現在では広くドイツ語を学習する意志のある如何なる外国人に対しても門戸を開いております。で私はおひざえの専門クラスに編入されまして第1日を迎えたわけです。総員17名で各国から大体1名づつでした。授業は午前9時から午後1時半までで土曜日曜は休みです。内容は文法，現代文学，古典文学，教授法，歴史，地誌，時事問題等で，最も重点をおかれたのは口頭試問で，授業中絶えず教材を軸にして質問をされます。クラスが17名ですが，1時間内に数回あてられます。私共のクラスは15ケ月で終了する特別研修でしたが，私はその前半を受講し最終試験を半年繰上げ，ミュンヘンの名門高校マクシミリアンギムナージウムで第4学年に対し現代文学短編作品の講義を卒論としてやらせて貰いました。これが7月の初めでした。1月から3月までの間にはベルリン，リューベック，ハンブルグ，ブラウンシュヴアイク，アウグスブルク，バンベルク等各都市へクラス全員で研修旅行につれていってくれましたので，7ケ月の中の大半が旅行と見学で終ってしまいました。更に旅行のないときはミュンヘンでオペラコンサート，芝居に招待され，研修旅行共一切無料です。また授業に使用する教科書，教材も一切無料で支給されました。ところが，その内絶えず旅行，招待を通じての印象なりインタープリータツィオーン（解説）の平常口頭試問が繰返され，また筆記の答，口頭の中間試験が行われ，平均点が不可になると初級クラスに戻され他へ転出させられます。私共のクラスでは2名落されました。

旅行見学で見せられるのは先づ教会，博物館，美術館，劇等です。建築様式，造型美術，絵画等それぞれロマネスク，ゴチック，バロック，ルネッサンス等年代別の特徴とその時代の歴史的背景を説明されますが，教会は別としても，国内到るところに博物館，美術館が殆んどの都市に大な

り小なりあるのには感心させられます。一体ドイツ人は非常に歴史を大切にする民族で，博物物館等には自国の物許りでなく世界各地か集めた種々な資料が完全な保管をして陳列してあります。ブレーメン博物館の日本の神社，マインツのグーテンベルク印刷記念館の日本の紙すき場，ミュンヘンのドイツ博物館にある日本家屋等も清潔に保存されていました。ミュヘンのドイツ博物館等は半年の回数券を売っている程で，２日や３日ではとても全部を詳しく見切れません。それに博物館，美術館は通常，日曜祭日は無料です。日曜日の散歩と見学を兼ねた散策には好適な場所です。ミュンヘンは戦前は人口約60万でしたが現在倍の120万になり，旧市内はバイエルン州の首都としての文化的な諸施設を戦前の形のままで復興させたのと同時に戦後はその郊外に工場が多く建設されました。従って工業人口が約60万戦後に増えたわけです。大半が東ドイツからの亡命者です。またミュンヘンは大きな国際都市で，人口の十分の一，つまり12万は外国人であるということです。現在西ドイツは約200万の外国人労働者をやとっていますが，文化都市であると同時に工業都市であるミュンヘンは従って外国人留学者及び労働者の数も他のドイツ国内の都市よりも比率が大きくなっています。日本人の留学生も70名程いました。外国人労働者で多いのはイタリヤ，トルコ，スペイン，ギリシャ等です。

ドイツの復興については外国から奇蹟の復興という驚きの讃辞を受けたのですが，これに対してはドイツ人は奇蹟等という偶然から生じた現象ではなく，当然なるべくしてなったのだという反論を，昨年フランクフルター・アルゲマイネ紙で経済学者のペーターヘルリンが出しておりました。その根本的の原因は何といっても政治家，学者，資本家，労働者一体となった強力な復興意慾であること，そしてその転機としなったのが1948年の幣制改革とヨーロッパ復興計画であるマーシャルプランによる援助資金が無駄なく行届いた管理の下に合理的に建設資金として充当されたことを強調しておりました。既に10年前から戦勝国の英国を国民の生活水準では水をあけて引離しておりますが，これは戦後ドイツの残っていた諸機械設備をそのまま英国が持って帰って使用し，製品を生産しているに対し，ドイ

ツはアメリカの援助資金で全く新しい機械と設備を購入或いは製造して本質的に体質を改善した生産機構による能率的な生産方法に生れ変ったため大きく効率の差がついたわけです。戦前のドイツは国民の食糧の五分の一を輸入していましたが，東西に分割された現在の西ドイツは農業地帯を広く東ドイツにとられたので，現在三分の一を外国から輸入しなくてはならない。従って国民が生活してゆく為にはより一層工業化を復興すると同時に発展させねばならぬ必然性があったわけです。

西ドイツの人口は5千5百万，西ベルリン2百20万で，東ドイツは僅か1千6百万，東ベルリンが1百10万で総計7千440万（1962年）で国土面積は東西両ドイツ共日本の半分位です。西ドイツの道路14万4千粁の内，高速道路が2千9百粁，国道が2万9千粁，州道は11万2千粁で全部完全舗装です。自動車の総数は1千150万台で，内乗用車3百10万台，トラック74万8千台，従って9に1人は乗用車をもっています。高速道路は全部無料，速度制限なしですが，実際には80から120粁位で走っています。規則で変っているのは，高速道路上でガス欠になった場合，警察から罰金をとられますが，パンクその他走行時起る得る故障に対してはドイツ自動車団体の救援車が無料で直してくれます。自動車事故も多く1962年には死者1万4千88人，日に39人，負傷者1千2百にを出していますが，違反の事故よりは不注意による事故が多いようです。

日本とドイツとは同じく敗戦国としての辛酸をなめた後，再び工業国として立派に復興いたしましたが，各々周囲の政治情勢及び国情が違う関係で，日本にはまだ兵役の義務がありませんが，ドイツは1949年発布の基本法で満18才の男子に18ケ月の兵役の義務を課しており現在陸海空併せて60万の兵力を有し，NATOの有力な一員です。但し西ベルリンの市民は西ベルリンが特殊な位置にあるため兵役の義務が免除されています。

ベルリンは東ドイツの丁度中央部に位置していて，そこで東ベルリンと西ベルリンに戦後分かれておりますので，西ドイツから西ベルリンへ行くには空陸何れを問はず，東ドイツを通らねばなりません。私は3月中旬約2週間研究所から西ベルリンへ研修旅行に参りました。往復共陸路ジェッ

ト機でミュンヘンから約1時間で着きました。途中東ドイツ領に飛行機が入ると高度を約4千に下げ定められた進路，所謂ルフトコリドーア（空中廻廊）を通らなくてはなりません。窓外をみると東独軍のジエット戦斗機が飛行雲を引きながら高空を旋回して進路を誤らないよう監視していて無気味でした。西ベルリンへはまた西ドイツの飛行機は入れなくて全部アメリカ，フランス，イギリス等外国の飛行機許りです。ベルリンには東京と同じく路面電車の他に高架線と地下鉄線と二つの電車がありますが，西ベルリン市内を廻っている高架線が東ベルリンの管理下にあるため，西ベルリン市民は料金が高架線の方が安いのにもかかわらず，ボイコットして殆んど利用していません。

私の今回の留学の目的は先づ第一にドイツのもっている良さと美しさに直接触れてみたいということと，その中で日本が是非取入れたいものを自信をもってつかみたい，そして第三に日本人が日本語からドイツ語に入るにはどのようなよりよい学習方法と理論を切り開けるかの三点でした。以上の内で，第一の問題については日常の生活と旅行を通じてドイツの歴史を通じて育まれた文化と生活を体験したお蔭で，個人的に享受し納得できるものでした。第二の点については，これは一日本人として声を大にして同胞諸君に訴えたいことが二つあります。その一つは，一人一人が音響的な静けさを日々の行住坐臥一切の動きの中で保持すること，避け得られる音声，物音を発しないこと，西洋では静寂を保つことは市民の第一の義務とされています。これは全国民的に及ぼすべき命題で，少くとも全国の小学校一年生から教育する必要があると考えます。もう一つは，屋外一切の地域の清潔保持である。社会の清潔はこれを各個人の善意な公徳心に訴えるのではなくて，寧ろ立法行政管理による強制力をもって処理した方が合理的であるように思われます。ヨーロッパにおける白人社会の高度の清潔な環境は決して公徳心からでたものではなく，始めは専制君主の罰則を伴った法令によって保たれた習慣が現代に至るまでに個人，家庭及び社会の生活の中に根ざしてしまっているのです。つまり清潔にせざるを得なかったという必迫があったことは歴史的な事実です。そして現在でも，例えば

屋外において指定の場所以外に物品を，たとえ紙屑一つにしろ放棄することは罰則の対照とされています。日本人は自己の屋内は清潔にするが屋外は出たらめだと云われていますが，これは屋外を清潔に保持すること，つまり物を屋外に捨てないことを義務づけることによって解決できるのではないでしょうか。タバコの吹殻にしても同じです。

日本語からドイツ語に入るよい道は矢張り最も常識的な方法しかないと思います。即ちドイツ及びドイツの文化に対する興味と，それを少しづつ理解することによって生ずる感動が，その人の語学力を推進する原動力となること，言葉は話され生きた言語としての本質から当然言語の音声と切離すべきではなく，絶えず音声を通じて言語を文字の形としてでなく，メロディーのある発言として受取る練習をすることの二つであると思います。その他発音，文法及び教材或いは教授法等技術的なそれぞれの要素は，我国のドイツ語学習者が大半大学の一年次から始めるのであり，全員が或程度英語の訳読の素養をもっている条件を考えて，内容的に現代ドイツの生きた生活の営みをそのまま表現している題材を，つまり私達日本人の日常生活の感覚を通じて身近かに感ずる，また共感を呼ぶ筋書を当てはめる方がドイツ語に親しむという点で大きな利点になると思います。従来のように一通りの文法が終ったら，いきなり著名作家の作品を訳させるのも宜しいが，その前にドイツの地理と歴史をテーマーにしている教材を利用した方が親しみ易く，またドイツそのものに対する理解と印象が強くなると思います。